

令和7年度

NARA ARTS BRIDGE for Youth

事業報告書

令和7年7月～令和7年10月

奈良市 文化振興課

目 次

NARA ARTS BRIDGE for Youthについて	1
参加者募集・選考について	2
国内プログラム		
奈良市交流プログラム【日中韓青少年文化交流 in 奈良】	3
海外渡航プログラム		
韓国・済州特別自治道青少年交流プログラム	7
参加者レポート	11
中国・寧波市青少年交流プログラム	12
参加者レポート	15
令和7年度 今後の課題について	16

NARA ARTS BRIDGE for Youthについて

■ NARA ARTS BRIDGE for Youth

「NARA ARTS BRIDGE for Youth」は、2016 年の東アジア文化都市における日中韓交流事業の成果を未来へとつなぐことを目的とした、大学生や高校生等を対象とした国際文化交流プログラムである。

平成 29 年度から、奈良市内で様々な分野についての学びを深めるプログラムや、中韓からの大学生や高校生等を招き交流を行う日中韓青少年文化交流プログラム、さらに日本から現地に渡って学生たちと交流を行う海外渡航プログラムを実施している。

なお、これまで「東アジア文化創造 NARA クラス」として実施していた青少年国際交流プログラムは、現在「NARA ARTS BRIDGE for Youth」として運営している。

■ 令和7年度テーマ「ダンス」

今年度は「ダンス」をテーマに各プログラムを展開した。「ダンス」は、言葉を超えて人々の心をつなぎ、共に感動や思いを分かち合うことができる表現手段である。また、身体を通した表現を通じて、互いの文化や価値観を理解し合うことも可能である。こうした「ダンス」の力を活かした活動は、東アジアのより豊かで平和な未来を築くための大切な一歩になると考え、本企画を実施した。

東アジア文化都市 2016 奈良市

「東アジア文化都市 2016 奈良市」では、事業の柱となる「基幹事業」、中国・韓国のパートナー都市とともに開催する「交流事業」、奈良の既存のポテンシャルを生かしさまざまな事業と連携し発信する「連携事業」、そして東アジアの文化をテーマとした「シンポジウム」で構成。

「交流事業」では、パートナー都市である、中国・寧波市、韓国・済州特別自治道とさまざまな分野において文化交流を行った。

参加者募集・選考について

募集期間:令和7年5月23日(金)～6月13日(金)

○応募者

(人)

結果	高校生	大学生	社会人	合計
選考通過	9	7	0	16
落選	10	5	0	15
合計	19	12	0	31

○参加者

(人)

結果	高校生	大学生	合計
寧波市青少年交流プログラム	5	3	8
済州特別自治道青少年交流プログラム	4	4	8
合計	9	7	16

顔合わせ交流会

日 時: 令和7年7月13日(火) 19:30～20:00

場 所: 奈良市役所北棟 202会議室

参加者: 16人(うちオンライン参加8人)

内 容:

- ◎ 事務局による奈良市交流プログラムの概要説明
- ◎ 参加者による自己紹介
- ◎ 奈良市交流プログラムにおけるチーム分けについての説明

国内プログラム

奈良市交流プログラム【日中韓青少年文化交流 in 奈良】

日 時：令和7年9月6日(土)、7日(日)

場 所：はぐくみセンター、奈良公園、奈良市ならまちセンター

講 師：ダンサー MUKABI 氏

日本舞踊英流 英 煌央(はなぶさ こうおう)氏

出席者：奈良市 参加者16人、指導者・指導補助者6人 合計22人

寧波市 参加者9人、引率者1人 合計10人

濟州特別自治道 参加者7人、引率者・通訳2人 合計9人

内 容：日中韓参加者による国際文化交流プログラム

【1日目】9月5日(金)

行 程

【寧波交流団】16:50 関西国際空港着 [入国]

18:50 奈良市着

【濟州交流団】17:55 関西国際空港着 [入国]

18:10 奈良市着

コンフォートホテル奈良泊(中韓交流団のみ)

【2日目】9月6日(土)

行 程

9:20 歓迎セレモニー・アイスブレイク

10:00 ダンスワークショップ

13:00 ダンスワークショップ

15:45 フィールドワーク

17:30 歓迎夕食会

コンフォートホテル奈良泊(中韓交流団のみ)

歓迎セレモニー・アイスブレイク

- ◎ 主催者代表による歓迎挨拶(奈良市文化振興課長)
- ◎ 中国・韓国都市代表による挨拶(寧波市青年舞踊団副団長、濟州特別自治道文化政策課チーム長)
- ◎ アイスブレイク

日中韓混合の3チームに分かれ、テンプレートを使った自己紹介を行った。その後、ゲーム

(チーム対抗のフラフープくぐり等)を行い、自然と笑顔や会話が生まれるなど、参加者同士の距離が縮まる時間となった。



ダンスワークショップ(午前)

【講師】 MUKABI 氏(ダンサー)

- ◎ 講師紹介および講師によるダンスパフォーマンス
- ◎ 準備体操
- ◎ 翌日のフィナーレで発表するダンスの全体練習



ダンスワークショップ(午後)

- ◎ チーム別ダンス練習

3チームに分かれ、講師の振付指導のもと、それぞれ指定された課題曲の練習を行った。

A チーム: YOASOBI 「アイドル」

B チーム: 和楽器バンド 「千本桜」

C チーム: RADWIMPS 「なんでもないや」



フィールドワーク

- ◎ 奈良公園周辺で、チームごとに奈良市参加者が企画したルートを散策した。歴史的な建造物や自然景観に触れながら、奈良ならではの文化的景観への理解を深める機会となった。

歓迎夕食会

- ◎ 食文化の紹介

各都市の参加者代表1名が、それぞれの都市の食文化について紹介を行った。料理にまつわる話題を通して会話が弾み、和やかな雰囲気の中で交流を深めるひとときとなった。

【3日目】9月7日(日)

行 程	9:30 浴衣着付け体験
	10:00 日本舞踊体験
	13:20 ダンスワークショップ
	16:00 フィナーレ

コンフォートホテル奈良泊(中韓交流団のみ)

浴衣着付け体験

【講師】日本舞踊英流 英 煌央氏

- ◎ 講師紹介
- ◎ 浴衣や帯、腰紐など着付けに用いる小物の説明
- ◎ 講師の指導のもと、参加者全員が浴衣の着付けを体験した。参加者同士で声を掛け合いながら着付けを進める姿も見られ、日本の伝統的な生活文化に親しむ時間となった。

日本舞踊体験

【講師】日本舞踊英流 英 煌央氏

- ◎ 日本舞踊の概要説明(基本的な所作や動き、物の見立て等)
- ◎ チームごとに分かれ、基本的な動きや簡単な振付を体験した。参加者は一つ一つの動作に込められた意味を感じ取りながら、日本文化の奥深さに触れた。



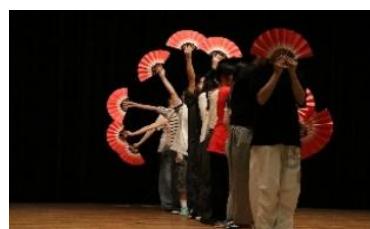
ダンスワークショップ

- ◎ チーム別でダンス練習

フィナーレでの発表に向け、チームごとに分かれて練習を行った。これまでに学んだ振付を確認しながら、表現力の向上や動きの統一を意識した練習を重ねた。

- ◎ 合同練習

全チーム合同で立ち位置や動線の確認を行い、全体の振りについて最終調整を行った。



フィナーレ

- ◎ 講師によるダンスパフォーマンス
- ◎ 各チームによるダンス発表
日中韓混合の各チームが、それぞれ練習の成果を発表し、チームワークと個性を生かしたパフォーマンスを披露した。
- ◎ 奈良市参加者によるダンスパフォーマンス
- ◎ 日中韓参加者による合同ダンス披露
- ◎ 各都市参加者代表による感想発表
各都市の参加者代表が、本プログラムを通じて得た学びや交流の感想を発表し、文化交流の意義を改めて共有した。
- ◎ 講師による講評および励ましの言葉
- ◎ 全体記念撮影



【4日目】 9月8日(月)

行 程

【寧波交流団】 8:00 奈良市発
12:15 関西国際空港発 [帰国]
【濟州交流団】 8:00 奈良市発
12:00 関西国際空港発 [帰国]

海外渡航プログラム

韓国・済州特別自治道青少年交流プログラム

日 時：令和7年8月5日(火)～8日(金)

出席者：奈良市 参加者8人、指導者・通訳2人 合計10人

寧波市 参加者10人

済州特別自治道 参加者20人、講師7人、通訳4人 合計31人

東京学芸大学 参加者4人

内 容：

【1日目】8月5日(火)

行 程	12:00 関西国際空港発 [出国]
	13:50 済州国際空港着
	17:55 歓迎セレモニー
	19:00 プログラムの説明・レクリエーション
	オーシャンスイートチェジュホテル泊

歓迎セレモニー

- ◎ 主催者代表による歓迎挨拶(済州特別自治道文化体育教育局長)
- ◎ 各都市参加者の紹介
- ◎ 歓迎ショートムービーの上映

韓国の学生が制作した歓迎ショートムービーが上映された。会場全体は和やかな雰囲気に包まれ、参加者は映像を通じて交流への期待感を高められた。



プログラムの説明・レクリエーション

- ◎ 昨年度の交流の様子を紹介する動画の上映
 - ◎ メンター紹介
- 若手ダンサーとして活躍する7名がメンターとして参加し、そのうち2名が歓迎のデモンストレーションダンスを披露した。参加者は高い技術と表現力に触れ、以降のワークショップ

への意欲を高めた。

◎ 参加者自己紹介

日中韓混合で3チームに分かれ、自己紹介を行った。バレエや民族舞踊など、自分の特技を披露する学生も見られた。

◎ 身体を使ったレクリエーション

会場内を歩きながら、メンターの合図で指定された人数ごとにグループを作るゲームや、ジェスチャーゲームを実施した。体を動かしながら交流を図ることで、参加者同士の緊張をほぐし、チームワークの醸成につながった。



【2日目】 8月6日(水)

行 程	9:30 ダンスワークショップ(文化レクチャー)
	10:30 ダンスワークショップ(振付指導)
	15:00 ダンス動画の撮影
	17:00 済州海女博物館見学
	20:00 ダンスナイト(オープンマイク)

オーシャンスイートチェジュホテル泊

ダンスワークショップ(文化レクチャー)

◎ 済州を象徴する「石・風・女」の解説

済州に多いとされる理由と、各チーム名の由来となる三要素であることが説明された。

◎ 済州の自然・文化の解説

韓国ドラマなどの事例を交えながら、済州の自然環境や文化、歴史的背景について解説が行われ、地域文化へ理解を深めた。

ダンスワークショップ(振付指導)

◎ カバーダンスの振付指導

3チームに分かれ、メンターの振付指導のもと、それぞれ指定された課題曲の練習を行った。

石チーム: BTS 「Dynamite」

風チーム: TWICE 「Dance The Night Away」

女チーム: Black Pink 「Forever Young」



ダンス動画の撮影

- ◎ 石チームは済州石文化公園、風チームはヨンヌニオルム(龍眼岳火山)、女チームは海女文化博物館で撮影を行い、地域の魅力を背景にした映像作品を制作した。



ダンスナイト(オープンマイク)

- ◎ 歌やダンス、バスケットボールなど、市民による多様な活動が行われているタプドン広場で、メンターおよび日中韓各都市の学生がダンスパフォーマンスを行った。



【3日目】8月7日(木)

行程	9:00 ダンスワークショップ(振付指導) 13:00 済州民俗自然史博物館見学 17:00 フラッシュモブパフォーマンス 17:30 閉会式
オーシャンスイートチェジュホテル泊	

ダンスワークショップ(振付指導)

- ◎ フラッシュモブの振付指導
メンターの指導を受けながら、参加者全員でフラッシュモブ用のダンス練習を行い、立ち位置や動線を確認するなど、本番を想定した最終調整を行った。



フラッシュモブパフォーマンス

- ◎ バス停前に位置し、一般市民も自由に 観覧できるタムナ文化広場で、1回のリハーサル後にフラッシュモブパフォーマンスを実施した。突発的な演出により、多くの市民の関心を集め、交流事業の発信効果を高めた。
- ◎ 寧波参加者による民族舞踊パフォーマンス
- ◎ 済州のダンスチームによるパフォーマンス
- ◎ 各チームによるダンス発表
- ◎ 済州参加者によるダンスパフォーマンス
- ◎ 日中韓参加者による合同ダンス披露



閉会式

- ◎ 日本・中国総領事館代表による挨拶(在済州日本国総領事館首席領事、在済州中国総領事館総領事)
 - ◎ 主催者代表による挨拶(済州特別自治道文化体育教育局長)
 - ◎ 日本・中国都市代表による挨拶(奈良市文化振興課振興係長、寧波市青年舞踊団チーム長)
 - ◎ 日中韓各都市参加者代表による感想発表
- 各都市の参加者代表が、プログラムを通じて得た学びや交流の成果について発表した。



【4日目】8月8日(金)

行 程	10:20 東門市場見学
	16:00 済州国際空港発 [帰国]
	18:00 関西国際空港着

【参加者レポート】(一部抜粋)

■ Tさん(大学生)

言葉がうまく通じないからこそ、お互いに歩み寄ろうとする姿勢が強くなり、自然と信頼関係や友情が芽生えた。完璧な言葉ではなくても、努力する姿が相手に伝わり、そこに生まれる共感や尊敬の気持ちが、国境を越えた絆を築くのだと感じた。

■ Oさん(大学生)

異文化に触れることで食や生活習慣、考え方の違いを学び、自分の視野が大きく広がった。今後はこの経験を生かし、国籍や言語にとらわれず、積極的に交流を楽しみ、柔軟に人間関係を築いていきたいと思う。

■ Aさん(高校生)

このプログラムを通して、ダンスの技術の他に、韓国の文化的・精神的側面、そして新たな友情を育むことができた。僕もこれから済州の人達のように、人に対する敬意や愛を忘れずに積極的に人とかかわっていきたいと思った。

■ Yさん(大学生)

言葉や文化の違いを乗り越えて、人と人がつながる瞬間に立ち会うことで、自分がその架け橋になりたいという気持ちがより強くなった。ダンスや文化交流の経験を通じて得た学びを進路選択にも生かしていきたいと考えている。

中国・寧波市青少年交流プログラム

日 時：令和7年10月24日(金)～27日(月)

出席者：奈良市 参加者8人、引率者・通訳2人 合計10人

済州特別自治道 参加者13人、引率者・通訳1人 合計14人

寧波市 参加者13人、講師3人、通訳2人 合計18人

内 容：

【1日目】10月24日(金)

行 程	12:25 関西国際空港発 [出国]
	13:55 上海浦東国際空港着
	19:00 寧波市着(専用バス利用／約3.5時間)
	20:30 歓迎セレモニー
	21:20 ダンスワークショップ(振付指導)

寧波凱洲クラウンプラザホテル泊

歓迎セレモニー

- ◎ 主催者代表による歓迎挨拶(寧波市文化広電旅游局副局長)
- ◎ 日本・韓国都市代表による挨拶(奈良市文化振興課長、済州特別自治道文化体育教育局長)
- ◎ 日中韓各都市によるダンスパフォーマンス
各都市から参加した学生が、それぞれの文化的背景や特色を生かしたダンスを披露し、交流の幕開けを飾った。
- ◎ ダンス指導者紹介およびダンスパフォーマンス
ダンス指導者の紹介に続きパフォーマンスが披露され、会場は大いに盛り上がり、参加者の一体感が高まった。
- ◎ 集合写真撮影



ダンスワークショップ(振付指導)

- ◎ 全体練習

講師の振付指導のもと、成果発表会で披露するダンスを参加者全員で練習を行った。



【2日目】10月25日(土)

行 程

- | | |
|-------|------------------------|
| 9:00 | ダンスワークショップ(振付指導) |
| 14:30 | 寧波市天一閣博物院見学 |
| 16:00 | 文化体験 |
| 19:30 | 「東アジア文化都市」スペシャルコンサート鑑賞 |

寧波凱洲クラウンプラザホテル泊

ダンスワークショップ(振付指導)

◎ チーム別振付指導

2チームに分かれ、講師の指導のもと、それぞれ指定された課題曲の練習を行った。各チームとも、作品の表現意図や動きの意味について理解を深めながら、振付の習得を進めた。

- A チーム：民族舞踊「江南」
B チーム：現代舞踊「躍動」



文化体験

◎ 伝統菓子作り体験

寧波市の伝統菓子「龍鳳金團」の手作り体験を実施した。参加者は材料や製法の説明を受けながら作業を行い、地域に根付いた食文化への理解を深めた。

◎ 伝統文化体験

中国の伝統衣装に用いられる「ぼたん」を作る体験を実施した。模様や色彩に込められた意味についての解説を通して、中国の伝統服飾の文化的象徴への理解を深める機会となった。



【3日目】10月26日(日)

行 程	9:00 ダンスワークショップ
	15:00 中日韓青少年美術展鑑賞
	16:30 成果発表会リハーサル
	19:00 「東アジア文化都市の集い」中日韓青少年文化交流成果発表会

寧波凱洲クラウンプラザホテル泊

ダンスワークショップ

- ④ チーム別練習および本番に向けた最終確認
本番を想定し、チームごとに練習を行い、振付や動きの確認、タイミングの調整などの最終確認を行った。これまでの練習成果を共有しながら、作品の完成度向上を図った。



「東アジア文化都市の集い」中日韓青少年文化交流成果発表会

- ⑤ 会場となった広場には、日中韓の関係者や寧波市民など多くの観客が集まり、華やかな照明と臨場感のある音響により、魅力的な舞台空間が演出された。
- ⑥ 各チームによるダンス発表
各チームがこれまでの練習の成果を披露し、温かい拍手と歓声が送られた。
- ⑦ 他団体によるパフォーマンス
成果発表会では、他の参加団体による多様なパフォーマンスが披露され、会場全体が活気ある雰囲気に包まれた。
- ⑧ 日中韓参加者による合同ダンス披露
- ⑨ 全体記念撮影
- ⑩ インタビュー対応
奈良市参加者1名がメディアによるインタビューを受け、本プログラムを通じて得た経験や国際交流への感想を語った。



【4日目】10月27日(月)

行 程	9:00 寧波市発(専用バス利用／約3.5時間) 14:55 上海浦東国際空港発 [帰国] 18:00 関西国際空港着
-----	---

【参加者レポート】(一部抜粋)

■ Tさん(高校生)

今回の交流プログラムを通じて、文化や価値観の違いに驚くことも多かったが、それ以上に「違いを受け入れ、楽しむこと」の大切さを学んだ。

■ Mさん(大学生)

このプログラムのおかげで異文化を学ぶ楽しさを知ることができたため、このプログラムの参加がもっとたくさんの国の言語や文化を学びたいという考えにつながり、これからも国際交流の参加や様々な国の言語の学習、文化的背景が異なる人々との交流を積極的に行いたいと思った。

■ Yさん(高校生)

今回の交流を通じて学んだ表現力やコミュニケーションの大切さを生かし、学校のイベントや地域の活動にも積極的に参加していきたい。将来は世界中の人たちとダンスを通してつながり、互いに刺激を与え合えるような活動ができるよう努力していきたい。

■ Yさん(大学生)

言葉や文化は違うけれど、同じ若者として共有できる感情や価値観は多くあり、国や地域で違いを感じるのではなく、人と人とのつながりだということを大切にするべきだと思った。これからも言語学習を続け、相手の文化を尊重しながら、韓国・中国に限らず様々な人と積極的に交流したい。

令和7年度 今後の課題について

<成果>

- 本プログラムは、「東アジア文化都市 2016 奈良市」事業を契機に始まったプログラムであり、日中韓の文化交流を通じて相互理解の促進を目的として継続的に実施してきた。参加者が中国や韓国の学生と直接触れ合うことで、先入観や偏見を見直すきっかけとなり、各の文化芸術の多様性を理解することにつながった。
- 海外渡航プログラムについては、寧波市および済州特別自治道の多大な協力のもと、安全に全行程を終えることができ、参加者の満足度も高かった。特に、初めて海外を経験する参加者が多く、国際的視野の獲得につながった点は大きな成果である。
- 現地においては、同世代同士の交流を通じて参加者間の結束が強まり、帰国時には別れを惜しむ様子も見られるなど、深い信頼関係が築かれた。
- 参加者の感想文からは、言語や文化の違いがあっても相手を理解しようとする姿勢の重要性がうかがえ、国際理解の深化につながった。
- 事業期間を通じて、将来の進路やキャリアについて考えるきっかけとなるなど、参加者の意識面にも前向きな変化が見られた。また、「ダンス」という非言語的表現は、言語の壁を越えたコミュニケーションを可能にし、国際交流において有効な手法であることを確認できた。

<課題>

- 今年度は事前ワークショップを実施しなかったためか、事業開始前のコミュニケーションが十分に図れず、事業がある程度進んでから、ようやく関係を構築できた参加者もいた。
- 事業を長年継続する中で、交流テーマの設定が年々難しくなっており、参加者の関心や社会状況を踏まえた新たなテーマ設定や企画自体の見直しが必要である。
- 交流人数や予算配分において都市間のバランスに課題が見られるため、各都市の要望を踏まえつつ、奈良市としての調整方針を明確化する必要がある。
- 国際情勢の変化を踏まえ、交流内容や事業運営の在り方について、柔軟に対応していく必要がある。
- 参加者レポートの提出率は80%であった。回収時期や方法について、改善策の検討が必要である。

奈良市文化振興課
奈良市二条大路南一丁目 1-1
☎0742-34-4942 ☎0742-34-4728
令和7年12月